

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600197		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	グループホーム ペルエポック		
所在地	帯広市川西町西1線47番地6		
自己評価作成日	令和 5年 1月 31日	評価結果市町村受理日	令和 5年 4月 13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174600197-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク北海道福祉調査センター		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ご家族との繋がりをいつまでも継続する事」数年前より、生活の様子や出来事(写真付き)をお手紙にして担当者から毎月お知らせしています。ご家族も楽しみにしています。
 「利用者個々を大切に」いつまでも、自分の力で歩く・自分の力で食べる！事を大切にしています。個々のやる気を引き出すために、達成感を感じてもらう為に、楽しい事・嬉しい事など、日々笑顔で過ごせるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は自然豊かな十勝平野の閑静な農村地帯に位置し、母体法人が運営する福祉施設が多数あり、広大な敷地にコミュニティを作っている。災害や感染症拡大時には法人からの協力体制が確立している。天窓からは陽光が入り、明るく、共用空間には利用者職員による張り絵などが飾られ季節感を漂わせている。コロナ禍が長期化する中で敷地内の畑を土壤改良し、昨年はかぼちゃ、さつまいも、大根やとうもろこしを育て、草取りや手入れを利用者と職員が行い収穫野菜を料理して楽しんでいる。外出できない日々でも、畑の生育を窓から楽しむことができ農作物生産を職業としていた利用者は役割を持ち生きがいに繋がっている。また、事業所内では利用者を中心にラジオ体操を始め、風船バレー、ボーリングなどで体を動かし、将棋やカルタなども日々工夫しながら楽しい毎日を過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	明けの	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人理念をケアに結びつけられるように、会議や日頃の議論の中で意味合いを意識できるように努力しています。	「古き良き時代」「その人らしさ」を大切にした生活の場、を理念として事業所内に掲示している。職員が日々確認できるようにタイムカードの上に貼り、利用者の理解やケアを意識できるよう工夫している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の環境を地域と考えて、地域の方との交流を大切にしていますが、コロナ禍という事もあり、感染対策を継続する中で難しい状況にあります。	広い敷地内に同法人の介護施設などが隣接しているのでコロナ禍では地域住民より法人内職員との交流が多く見られた。その中でも運営推進会議の資料を近隣の参加者へ配布するなど交流を工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり電話でのやり取りになりましたが、入所申し込みを頂いている方々のお話の中で僅かですが、関りの提案をさせて頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面での会議となりました。自施設の様子を報告させて頂き、ご意見、感想を返信して頂いています。多くの応援と労いの言葉が職員の大きな励みになっています。	2か月毎に書面会議を開催している。地域住民や元家族、地域包括支援センター職員、民生委員に事前に資料を配付し意見を集約して報告書を作成している。よせられた意見や提案をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護高齢福祉課や生活支援課への連絡を必要に応じて行っています。	コロナ感染時には振興局と、また日頃の介護認定更新時期や事故報告書提出時には介護高齢福祉課と情報を共有し、生活保護担当者とは病院受診、医療的な情報も適宜共有し関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束会議を定期的実施し、職員間での意見交換・意識の向上の共有を行っています。	ホーム内で定期的に身体拘束委員会を開催しスピーチロックなど不適切ケアについて事例を検討し意見交換をしている。センサーマットなど使用している利用者についても必要性やリスクについて事業所の取り組み方針を都度検討し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会議の場で、研修で学んだことを職員間で共有したり、意見交換を行うことで防止に努めています。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族やご利用者の生活状況の変化に伴い、地域包括支援センターの社会福祉士の協力を得ながら制度を必要に応じて活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について説明を行い、個別の状況を検討しつつ、ケア方針に同意を頂き、契約を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡の際・面会時に、ご意見、ご要望を伺っています。伝えて頂きやすいように会話の機会を多く持つ事を心掛けています。	家族に面会制限がある中、窓越し面会やライン、ズームなどを使った面会に配慮している。電話や来訪時に意見や要望を言いやすいように声かけをしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中や、会議の場で意見交換を行いながら運営にあたっています。	法人からの決まり事は総括責任者から管理者やチーフに伝わり各職員へ伝達される。また定期的な会議の中で職員は意見やアイデアを出し合う機会があり、ケアに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人、働きやすい環境、やりがいを感じられるように日常の中で改善点を話し合い、整備に努めています。やりがいを感じてられるよう、アイデア等を形にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等で学んで知識を共有する為、日常業務、会議等でお伝えし、スタッフの育成を心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム同士でリモートで情報交換や交流を図っています。状況報告、ケース検討等報告し合い、それぞれの取り組みを参考にさせて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に得た情報や基本台帳を職員間で共有できるようにし、ある程度理解をしたうえで入居できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時にご家族からよく話を聞き、困っている事・不安な事・要望などを伺うようにしています。ベルエポックでのご様子なども電話でお伝えし、ご要望があればお応え出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のADL、生活歴、日常生活の様子、住環境、家族状況等のアセスメントを行い、必要な福祉用具(寝具や歩行器、車いす等)をご家族と相談したり、できることを継続していけるよう、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活環境や、得手としている事の継続の為、洗濯物を畳んで頂いたり、食事の盛り付け、食器を拭いて下さったり、掃除を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が生活するうえで、必要な物や困りごと等あれば、都度ご家族様と相談し、ご協力をお願いしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということもあり、中々難しい状況ではありますが、ご家族様には窓越しでの面会をして頂いています。	遠方から家族が訪問される時には温かく迎えるなどの配慮をして関係性が途切れないように対応している。訪問理美容による馴染みの関係性継続により利用者がホッとする時間提供をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にテーブルに座った方たちと、コーヒーやお茶を飲みながらお話をしたり、カルタやトランプなどレクリエーション活動にお誘いするなどして、入所者同士関わる機会を意識して作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、運営推進委員として関わって頂くなど関係を継続していると思います。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で意向などを確認し、職員間で共有するようにしております。意思表示が困難な場合には、生活歴などから検討しています。	入居時に利用者の経歴等を把握し、日頃の生活から希望や意向を確認して職員間で共有している。表現方法が困難な利用者に対しては快、不快の感情を大切に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネジャーから得た基本台帳などの情報を基に、居室環境や生活環境を検討しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの方の状況に合わせて、役割分担や趣味の時間の確保に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での意見交換やケースカンファレンスを通じて共有し、ご家族の意向も確認しながら、介護計画を作成しています。	6か月毎に介護計画の見直しをしている。担当職員や看護師、家族などから意見や意向を把握し、介護計画を作成している。家族に送付し説明の上、確認を得ている。職員間で共有しケアに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の裏面に介護計画を記載し、日々の様子を記録していくことで職員間でも共有し、介護計画の見直しに活用しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画が現在のご本人の状態に合っているかをモニタリングし、介護計画の見直しや支援の変更を行っています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に運営推進委員になって頂いています。2ヶ月に1度、運営推進会議後に交流会(食事会)に参加して頂き、入居者や職員とも関わりを持って頂ける様に支援しています。今年度も新型コロナウイルス感染防止の為に開催することができていません。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を確認しつつ、日常の体調変化等を往診や定期受診時に報告しています。かかりつけ医との連携を常に大切にしながら、支援しています。	基本的には今までのかかりつけ医の受診支援体制を家族の協力を得て継続している。受診の際には日頃の状況を共有し適切な医療を受けられる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が訪問し、日々の利用者様の状況を報告したり、必要に応じて受診をしたり等、対応しています。記録物も確認して頂き、一緒に対応を検討しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際には、管理者が主となり、病院やご家族へ都度連絡し、現状を共有するようにしています。退院が近づいてきている際には、病院と随時連絡を取りながら必要な対応を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所でできる事をお伝えし、医療面での対応が難しい方など、ご本人の状態に合わせて、今後の生活の場の検討をご家族等とさせて頂いています。	入居時に本人、家族へ重度化や終末期の指針を説明している。病状や状態の変化時には主治医と相談しながら法人の協力も得て、チームで利用者の身体状況に添った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主に、夜間の急変時や事故発生時に備え、連絡ルートを周知したり、除細動器設置場所を周知したりしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え、避難ルートの確認、誘導の訓練を実施しています。コロナ禍の為事業所内での実施としました。マニュアルも設置し、職員が確認出来るように対応しています。	年2回の夜間も含めて火災避難訓練を行っている。災害時のマニュアルを見直したり、火災時の連絡網の手順を確認している。備蓄は3日分の飲料水及び食料は近隣施設との支援協力体制がある。発電機等も準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けや対応を検討し、日々実践しています。	利用者の個別性を大切にし、想いを尊重した言葉掛けや対応を工夫している。職員は情報を共有し、心地良いケアを目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員を中心として、記録物や職員間での情報交換を基に対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方の希望や思いを把握しながら、行いたい時に行えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服と一緒に選んだり、いつも身に付けている物を付けて頂いています。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍のため、職員と一緒に食事をとることは控えていますが、日々食事の盛り付けや片付けを一緒に行っています。季節に合わせた手作り食事会を考え、楽しんで頂く機会を都度企画しています。	法人の管理栄養士が献立を作成している。朝食は事業所で調理し、昼と夜は法人の厨房で作り事業所で盛り付けをしている。行事食は職員と利用者が一緒に考え、盛り付け等できることを手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの方の好みの食事や飲み物を把握し、必要な食事量や水分量を摂取できるよう、勧めています。また、日々の個人記録に摂取量を記載するようしております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔ケアの声掛け、介助をしております。義歯の洗浄や、必要に応じて歯科の受診を行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中や夜間、一人ひとりに合わせた時間に声掛けや誘導を行うようにしています。	時間での声掛けや本人の訴えなどでトイレに誘導し、個別に対応している。入院で排泄の自立度が低下した利用者に対し時間をかけて対応した結果、元の状態に改善した方もいた。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を個人記録に記載し把握できるようにしております。運動や体操の声掛け、薬の調整を医師に相談したりしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を目途に定期的に入浴して頂けるよう予定表を見ながらお誘いしています。体調不良や、気分が乗らない日は無理にお誘いせず、見送ることもあります。気持ちよく入浴していただける様に、その方の好みのお湯の温度にするように心掛けています。	週2回以上の入浴も可能である。入居者と職員の男女比は同じくらいではあるが同性介助への要望はない。湯の温度の好みに合わせて希望に応えるよう入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーに座ってテレビを見られたり、居室で休まれたりと自由に過ごして頂いております。それぞれの方に合った寝具を用意しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し、確認・見守りを行い服薬しています。症状や変化の把握を行い、随時医師や看護師に相談をしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の生活歴や嗜好品などを把握し、畑作りやお好みのお茶などを提供できるように支援しています。			

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や畑作業、希望に応じて行えるように支援しております。また、ご利用者の希望を基にコロナ禍に配慮しながら行事企画をし、普段は行けない場所への外出も行っています。	法人内の敷地は広く、散歩道や窓から見える畑で利用者と共に農作物を収穫して試食している。自然に触れることで気分転換を図ることができたり、ドライブスルーでコーヒーを嗜むこともある。	体力や気力の向上のために、一人ひとりの希望を把握し家族や地域の協力を得ながら外出の機会を増やしていくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望を聞き、ご家族とも相談のうえ、職員が代行して購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様やご家族様の希望に応じて、都度対応しています。また、毎月の生活の様子を手紙にしてご家族へ郵送し、報告しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく、くつろげる共有空間づくりのため、テレビやソファ、テーブルなどの配置換えをその都度行い、歩行や日常生活に支障がないよう配慮しています。また、時間や日にちを意識してもらえよう、分かりやすい場所に時計やカレンダーを設置したり、季節ごとに壁や天井に飾り付けをし、季節を感じて頂けるよう工夫しています。	事業所の共用空間には職員と利用者が協力して季節を感じることができる張り絵などを飾っている。気に入りの椅子や場所で過ごせるよう工夫をしている。気温や湿度、換気などに配慮し、居心地よく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外にも9名が座れる場所を数ヶ所配置し、落ち着く居場所作りを工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの方が以前から使用されていたものや、好みのものを持ち込まれて生活されています。	自由に家具等を持ち込めることを入居時に説明している。使い慣れたベットやタンスなどを持参する利用者もいる。家族写真や好みのグラビアアイドルの写真を壁に貼って楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレなどの場所がわかりやすいように貼り紙などを使用し、ご利用者が不安を感じずに室内を移動し、共有空間で過ごせる環境を工夫しています。		